

令和6年度 碧南市市史資料収蔵品展

「思い出の衣浦マンモスプール」



昭和62年(1987)ポスター



平成8年(1996)電車内中吊ポスター

平成4年(1992)7月28日撮影(すべて碧南市蔵)

令和6年 **8月3日(土)~9月1日(日)** 午前9時~午後9時 月曜日休館
※8月12日(月)は開館し翌日休館

会場：碧南市文化会館 (碧南市源氏神明町4) 1階 展示室1 〈観覧無料〉

主催：碧南市教育委員会 (所管：文化財課・市史資料調査室)

ギャラリー・トーク：会場にて担当者が展示の説明をします。参加費無料、事前申込み不要
8月10日・24日(土) 午後2時~(30分程度)

「思い出の衣浦マンモスプール」

令和 6 年 8 月 3 日(土)～9 月 1 日(日)

昭和 30 年代までは碧南市の海辺には、遠浅の地形を生かした海水浴場がいくつも開かれ、夏になると多くの海水浴客でにぎわいました。特に、玉津浦海水浴場、新須磨海水浴場などは県下でも有数の海水浴場として知られ、近隣地域以外に名古屋などからも多くの人々が訪れました。

しかし、衣浦港が重要港湾に指定されると、遠浅の沿岸部は昭和 40 年代から埋め立てられました。それにより広い工業用地が造成され、現在の財政力豊かな碧南市の礎を築きました。碧南の発展を喜びつつも、白砂青松の美しい景色を思い出し、波打ち際で楽しむことのできない寂しさを感じる人々も少なくありませんでした。

そこで、埋め立てによって失われた白波の打ち寄せる砂浜に代わるものとして、昭和 49 年に衣浦マンモスプールが造られました。当時は東洋一の造波プールとうたわれて、碧南市民をはじめ、多くの人々が訪れました。昭和 56 年には 30m と 50m のウォータースライダーを増設し、大いに人気となり、より多くの人々に親しまれるものとなりました。

衣浦マンモスプールの営業は毎年、7 月の第 2 週の日曜日から 8 月 31 日または 9 月 1 日（日曜日の場合）のおよそ 50 日間でしたが、盛況時には 1 シーズンで 20 万人を超える人々が訪れ、様々な催し物も行われました。

しかし、年月が経つと施設の老朽化が進み、故障も多くなって、年々維持費の増加と共に、維持そのものが難しくなっていました。同様の遊泳施設が各地にでき、利用者が減少する中、平成 15 年をもって、惜しまれながら 30 年間にわたる営業をやめました。マンモスプールの跡地には碧南市臨海公園が整備され、市民の憩いの場となっています。その地に東洋一とうたわれた造波プールがあったことを伝えるものとして、ちびっ子プールにあったクジラの噴水が、臨海公園内のちびっこ広場にマンモスプールのモニュメントとして残されています。

本年は衣浦マンモスプール開業 50 年にあたります。今年の市史資料収蔵品展は、近年、市史資料として収蔵された、昭和 49 年(1974)の開業から閉業の平成 15 年(2003)の 30 年の間、毎年作られた衣浦マンモスプールのポスターを中心に、在りし日の衣浦マンモスプールの姿をお伝えすると共に、多くの海水浴客でにぎわった市内の海水浴場の様子も併せてお伝えします。マンモスプールの思い出をお持ちの方も、知らない世代の方も、ぜひご覧ください。



昭和 30 年代の玉津浦海水浴場



50mのウォータースライダーから望むマンモスプール

碧南市教育委員会 文化財課 市史資料調査室
〒447-0872 愛知県碧南市源氏神明町 2
市民図書館中部分館 2階 TEL (0566) 41-4566